

第23回とさ・子ども主体の学校生活づくりを考える会（通称りぐる会）

テーマ ～豊かに生きよう～今を 明日を 将来を～

報告

令和7年2月8日（土）寒い中、「第23 回りぐる会」を開催しました。会場は、恒例の葉山で、近い距離で仲間を感じることができる、丁度の広さの和室で落ち着きました。

- 1 出席者は21名で、内訳は特別支援学校9名、特別支援学級6名、通常の学級1名、通級指導教室1名、市職員1名、助言・事務局合わせて3名でした。新人も複数いました！
- 2 話題提供の一つ目は、「高等部の作業学習について」と題して、高知特別支援学校高等部木工班 岡林 浩祐 さん。ここ数年取組んできた「作業学習」「できる状況づくり」を具体的に紹介され、本年度の取組み「新たな挑戦の楽しさ」が加わり、わくわくでした。全特連機関誌「特別支援教育研究 1月号」に掲載されています。必見です。

二つ目は「鶴文字の作成手順」一宮小学校 谷 雄二 さん。8年前に始まり本年度は小学校特別支援学級4校にまで広がっている「交流及び共同学習」の取組みです。まず通常の学級へ特学が出向き鶴を折ることを共にし、その後たくさん折ってもらいます。そして、特学の子どもたちがたくさんの鶴を紐に通し、鶴文字に仕上げていきます。タグや枠作り、鶴の選別等は教師の仕事です。できあがると、日常的に、あるいは行事の時に校内に掲示されます。校内外の方々からの賞賛の声が多く聞こえ、充実感が増します。

- 3 高倉 誠一 先生からは、まず、子どもたちと生活経験を一緒にすることの大切さが述べられました。また、新しい学習指導要領の作成が進行中で、①子どもが多様になってきており、子どもに合わせた教育課程を柔軟に ②自分だけではなく、周りの幸せのありよう、安全・安心、自分らしく、ウエルビーイング について強調されました。
- 4 「懇親会（お客）」では、高倉誠一先生による乾杯の音頭でスタート。お刺身やお寿司、サラダ等高知の幸をいっぱい頬張り、お鍋をつつついては、しゃべって、食べて、飲んで、実践を出し合ったり、学校・学級の現状を自慢したり嘆いたり、以前のことを思い出し、情を交わしたり、楽しいひと時でした。年に1・2回でも、仲間と話し合うっていいなあ、と痛感しました。はりまや橋付近で二次会、今まで食べたことのない珍味に感激しました。

次回は、令和7年8月ごろ、学校
閉庁前日くらいを予定しています。

令和7年2月 「りぐる会」事務局

りぐる会 八策

- 一 子ども主体
- 二 続ける
- 三 実践をベースに高め合う
- 四 柔軟な対応
- 五 仲間を増やす
- 六 あせらず じわじわと
- 七 功を求めず
- 八 本音で語ろう



*「りぐる」とは 土佐弁で ①いつもよりがんばる ②筋を通して、軸をぶらさない です。文：事務局